

1995年9月21日(木)～10月29日(日)

今月の寄贈品コーナー

10月29日(日)まで

郷土玩具の世界—中田コレクションより— 18名の実習生による展示

博物館では、毎年9月になると大学生を実習生として迎えています。今年も9月12日から20日まで、16大学18名の学生がやってきて、学芸員の指導のもとに博物館の仕事を体験してきました。

実習初日は館の概要説明を受けた後、班ごとに分かれて、展示内容の見所と注文点を討議し、結果を「ビギナーズガイド」としてまとめました。

2日目から4日目までは、考古・歴史・民俗・生物・地質・天文の6分野に分かれ資料整理、展示設営補助、現地調査、フィルムの実像、写真の焼き付けなどの実習を体験しました。

残りの3日間は、恒例の寄贈品コーナーの展示製作に挑戦しました。今回実習生に与えられた展示テーマは、「郷土玩具」です。展示に先立って、郷土玩具コレクションを寄贈して下さった子ども民俗研究家の中田幸平さんにお話しを伺いました。展示にあたっては郷土玩具をてあそび物・飾る物・縁起物、そして神奈川の郷土玩具に分けました。また、寄贈品コーナーの前に縁台を出し、遊びを体験できるスペースを設けました。日本各地から集められた懐かしのおもちゃや素朴な願いが込められた縁起物が、人待ち顔で並んでいます。お見逃しなく。

～実習を終えて～

●私は、今回、他の17名の実習生とともにこの平塚市博物館で、正味7日間の実習を受けました。資料整理実習では、発掘に参加させていただいたり、土器片の拓本をとったりしました。これらの作業は、1回はやったことのあることでしたが、なかなかうまくいかず大変でした。展示製作実習では、郷土玩具の展示を構想から行いました。私にとっては、初めての経験で、どのようにしたらよいかかわからず、たいへん手間どり一時はどうなることかと思いましたが、18名力を合わせ、時間オーバーの末、無事(?)に完成させることができました。みなさんから見ると、「まだまだ…」と思われるかもしれませんが、この7日間の努力が現れた展示で、私は満足することができ、充実した実習ができたと思います。(坪井志津子)

★短い期間だが、実習生として博物館の仕事に触れることができ、とても充実している。毎日が新鮮な気持ちで、数多くのことを経験できる。とても楽しい。

資料整理実習では、主に墓石調査を行ったが、いつもは机に向かって文献や史料とにらめっこという勉強が主だったため、不慣れな点も多くあり、皆様にさんざん迷惑をかけてしまう羽目となった。しかし、自分では満足してるからいいけど…。

展示製作実習では、大したことはできなかったけれども、自分の力が出せる部分で十分に力を出した。仲間達との協力もあって、とてもすばらしい展示になった(どう評価されるかは知らないけど…)。

学芸員の方々の温かい指導と良い仲間のおかげで、いい実習期間を過ごせた。本当に心の底からありがとう。今回の経験はきっと今後、いい影響を与えてくれると思う。(松本勝吉)



◆7日間という短い期間ではありましたが、資料整理から展示製作まで、普段見ることのできない裏側を見て、そして実際に作業することができました。そのなかで、資料整理においては、いかに資料を今後の貴重な財産として整理していくべきなのかを学ぶことができました。また展示製作では、いかにわかりやすく見やすく展示したらよいかという展示の難しさ、そして楽しさを実感しました。さらに、この博物館実習を通して、この平塚市博物館には様々な人々が関わっていることを知り、博物館を成り立たせているのは、学芸員ばかりでは決してなくて、多くの市民によっているものであるということも知りました。私もこの実習に参加したことを機会に少しずつでも博物館との交流を深めていけたらいいなと思いました。また、他のまだこの博物館の活動をあまり知らない人たちにも少しでも多く、博物館の良さを知ってもらえたら素晴らしいことだと思います。(高橋庸子)